



「めえ」3歳
ヤギ
にんじんが好物



「フク」3歳
フクロウ
首が180°回すのが特技



8~24歳
ファンボルトペンギン
流れてくるアジが好物



「さくら」7歳
川上犬
懐古園内の散歩が好き



芸

達者で動物園のスターになったチンパンジー「アコ」は、昭和39年のオリンピックに江ノ島マリリンランド（現在の新江ノ島水族館）からやってきました。

当時の飼育員の話では、「毎朝檻に行くとき、アコは自分でパンツと長靴をはき、お客さんに芸を披露するための出番を待つほど賢かった。」とのこと。動物園の環境に馴染めず、ストレスを抱えて病気になってしまったこともあったが、アコと飼育員は、ただただお客さんに来てもらうためにと芸を続けていました。小さな動物園の宿命とされながらも、アコの存在は当時のお客さんの心を魅了し、小諸市動物園のスターとして居続けていたことが分かります。間もなくアコが死んだとき、飼育員は自腹をきって、お経をあげてもらい、南谷に埋葬したとのこと。

か

つて、「ゾウ」がいますか？
小諸市動物園を覚えて

名前は「タイ子」。今から約50年前に動物園にやってきた二代目のゾウです。初代は2年で死んだ後、二代目「タ

イ子」は、昭和40年にインドからやってきて約20年間にわたり皆さんに親しまれてきました。ゾウがいる動物園は珍しく子どもたちには大人気で、写生大会ではタイ子の周りにはいつも人でいっぱいでした。

当時タイ子を担当していた飼育員の方の話では、「飼育していた動物の中でも一番印象深く、知能の高いゾウに心を許してもらうには一筋縄ではいかなかった。柵に近づくと鼻で遠ざけられたり、時には鼻でつかまれ宙づりにされるなどの体験をしました。心を許してもらうまでには時間がかかったが、タイ子が心を許してくれた瞬間はうれしかった。」とのこと。

2・5トンもの体重があったタイ子の食事は、リンゴ、じゃがいも、にんじん等で約50kgに及び、その糞の量は42kg。糞の処理方法をめぐって苦情が殺到したこともありましたが、そのことも今では小諸市動物園の大切な歴史の一つとされています。

※広報こもろ平成21年掲載「こもろ動物園物語」参照



小諸市動物園の人気者「タイ子」



芸達者のチンパンジー「アコ」